

視察・研修報告書

視察・研修先	新潟子ども食堂
開催日・実施日	2018年10月10日(水)
場 所	新潟県新潟市東区東明自治会館 こどもの茶の間
<p>概 要</p> <p>※新潟市内 23 ヲ所の子ども食堂がある。社会福祉協議会の事業（子育てサロン助成金）として、各食堂の運営内容により年間上限 30,000 円～45,000 円が支払われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ろうきん「笑顔プロジェクト」をはじめ個人からの寄付金など。 <p>※子ども食堂に集うのは子ども、親子連れ、中高生、大学生、成年、中年、高齢者とさまざまな世代が参加者・ボランティア・運営者として子ども食堂に関わっている。</p> <p>※23 ヲ所の曜日・開催日数・運営時間・参加費などはそれぞれ異なる。</p> <p>※東区には、4 ヲ所の子ども食堂があり、その中の「こどもの茶の間」を視察。</p> <p>【こどもの茶の間～親子のごはん屋さん～】</p> <p>①開催地：東明自治会館を利用</p> <p>②開催日：第1・第3水曜日（毎月2回）17：00～19：30</p> <p>③参加費：こども（高校生以下）無料 おとな 300 円 視察者 300 円</p> <p>④参加人数：平均 50～70 名</p> <p>⑤連携（地域・学校）：地元コミュニティ協議会、民生・児童委員、地域教育コーディネーター、保育園、幼稚園、小学校、中学校など。</p> <p>※新潟市子ども食堂ネットワーク連絡会（年に数回）や東区子ども食堂との情報交換会。</p> <p>⑥運営：ボランティア⇒趣旨に賛同してくれる人や SNS での呼びかけからくる人。</p> <p>⑦食材：お米は、様々な方から戴き大量に確保。個人的な支援者、フードバンクにいがた、コープ新潟など。</p> <p>※目的：子どもの貧困問題解決は喫緊の課題であるが、大きなテーマに取り組むのではなく、地域の人たちと利用者、親同士、子どもと様々なコミュニケーションを取れる居場所と時間を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人が抱える問題をくみ取り、地域や行政と連携し課題解決を図り、世代間交流の活性化を推進し、特に若い人が地域に入るきっかけに) 全ての人が参画できるコミュニティを構築する。 ・結果として、地域で子どもの貧困問題を考える機会とする。 <p>※具体的な施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子どもへの夕食の提供 ・子どもの遊び場所の提供、学習支援 ・親への悩みごと相談 <p>※今後の課題について</p> <p>①安定的なボランティアの確保</p> <p>②継続的に続ける運営資金の確保（会場費や消耗品）</p> <p>③食材費が経費の大半を占めるので、寄付を含めた安定的な運営方法</p> <p>④支援の必要な子どもたちに、安心して来てもらえる居場所にする</p>	

画像（略）

所 感

- ①市内 23 ヲ所の子ども食堂は、自治会館や団地集会所、お寺、教会、喫茶店などいろんな場所で平均毎月 2 回、曜日が重ならないように開かれている。社会福祉協議会が助成金を出し連携をとっているが、自主性に任せている。
- ②貧困家庭や虐待については、行政機関と連携をとり対応されている。不登校の子どもが来ているところは学生ボランティアが協力している。
- ③東区に 4 ヲ所あり子どもにとっては選択肢があり、曜日を調整することで週 4 日間は、子ども食堂で食事ができることは、孤食や貧困家庭の子どもにとっては居心地のいい場所ではないか。
- ④新潟市では社会福祉協議会と連携しているが、大野城市でも社会福祉協議会と連携できるように、多様な子ども食堂をつくり出すことが必要であり、今でも孤食の子どもが居るであろうし今後、共働き家庭が増加していくことを考慮すると、子ども食堂のあり方を幅広く検討することが大事だと思う。

— 作成者 清水 純子 —